

令和元年加茂市議会 6月定例会会議録（第3号）

6月24日

議事日程第3号

令和元年6月24日（月曜日）午前9時30分開議

第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

森山 一理君

1. 市長の政治姿勢について

山田 義栄君

1. 加茂市の農業政策について

三沢 嘉男君

1. 市民バスの運行について
2. シニア向けのパスポート事業について

○出席議員（18名）

1 番	森 友和君	2 番	大橋 一久君
3 番	橋本 昌美君	4 番	中沢 真佐子君
5 番	三沢 嘉男君	6 番	白川 克広君
7 番	佐藤 俊夫君	8 番	大平 一貴君
9 番	浅野 一明君	10 番	滝沢 茂秋君
11 番	森山 一理君	12 番	山田 義栄君
13 番	中野 元栄君	14 番	安田 憲喜君
15 番	樋口 博務君	16 番	安武 秀敏君
17 番	樋口 浩二君	18 番	関 龍雄君

○欠席議員（0名）

○説明のため出席した者

市 長	藤田 明美君	副 市 長	五十嵐 裕幸君
総務課 長 教育委員 長 庶務課 長	青柳 芳樹君	企画財政課 長 会計課 長	車谷 憲繁君

税務課長	菅家 裕 君	農林課長 農業委員会 事務局	和田正利君
商工観光課長 教育委員会 社会教育課長	明田川 太 門 君	市民課長	大野博司君
健康課長 福祉事務所長 加茂市介護・看護支援センター所長	井上 毅 君	建設課長	珊瑚 保 君
都市計画課長 水道局長 環境課長	樋口 敏 晴 君	下水道課長	和田利政君
市民福祉交流センター 「加茂美人の湯」所長	藤田 和 夫 君	教育委員会 学校教育課長	北原利章君
教育委員会 文化会館長	草野 智 文 君	教育委員会 公民館長	有本幸雄君
教育委員会 図書館長	土田 修 也 君	監査委員 事務局	目黒博之君

○職務のため出席した事務局員

事務局長	吉田 裕 之 君	係 長	美原弘美君
係 長	石津 敏 朗 君	主 査	吉田和実君
嘱託速記士	山田 真 織 君		

午前9時30分 開議

○議長（滝沢茂秋君） これより本日の会議を開きます。

これより議事日程第3号に入ります。

日程第1 一般質問

○議長（滝沢茂秋君） 日程第1、一般質問を行います。

通告順により質問を許します。

質問の要旨を順次局長に朗読いたさせます。

〔事務局長 質問要旨 朗読〕

○議長（滝沢茂秋君） 11番、森山一理君。

〔11番 森山一理君 登壇〕

○11番（森山一理君） 皆さん、おはようございます。11番、大志の会、森山一理でございます。令和元年の6月定例会に当たりまして、一般質問をさせていただきます。およそ2年ちょっとぶりの登壇でございますでしょうか。余り緊張しない男なのですが、ちょっと緊張しておりますので、何とぞよろしくお願いたします。

私の今回の一般質問につきまして、市長の政治姿勢についてでございます。6項目でございます。それでは、順次読ませていただきます。市長の政治姿勢について。市長におかれましては、このたびの加茂市

長選挙での御当選、まことにめでたうございました。市長は、変革、既存のものを変化させ、改善させるプロセスとイノベーション、物事の新結合、新しい切り口、新しい捉え方、新しい活用法を創造する行為を藤田明美市長に求めての藤田市政誕生だと考えております。加茂市発展のため、議会と両輪で、偏らない公平な加茂市政、よりよい郷土づくりを築いてまいりたいと思っております。加茂市御当局におかれましても、藤田市長をしっかりとサポートし、円滑に横の連携をとりながら、加茂市民の安心、安全のため、市政運営に努めていただきたく、お願いいたします。

さて、私は過去において、加茂市の変革すべきところを議会で一般質問させていただきました。このたび24年ぶりの記念すべき時旬に新市長が誕生したというところで、新たな取り組みも含めまして私の考えを述べさせていただきます。

6つの項目での質問となります。1、美人の湯について。2、コミュニティセンターについて。3、学校給食について。4、加茂市敬老会について。5、加茂山公園の旧市役所跡地駐車場について。6、国道289号線（八十里越）の開通に伴い、加茂市の受け入れ態勢と予算化についてであります。

1、美人の湯について。平成30年度9万2,023人の入館者があったものの、依然と経費が下がらない加茂市民注目の福祉交流センター、加茂美人の湯を市長は今後どのように運営していくのか。福祉費としてこのままの現状維持体制で運営していくのか。また、第三セクターとして新しい法人を設立するのか。指定管理者制度を導入するのか。業務委託をするのか。宿泊施設としての再生と、市民に開放された積極的なイベントなどの開催を提案いたします。

2番目、コミュニティセンターについて。上町コミュニティセンターと中央コミュニティセンターを1つにする考えはございますでしょうか。今年度予算で上町コミュニティセンター管理費1,361万8,000円、中央コミュニティセンター管理費1,984万7,000円が計上されております。上町コミュニティセンター土地借用費、年間約800万円がN T Tに支払われております。1つにすれば2,168万円の経費が浮くこととなります。また、100円風呂につきましても、過去私を含めて複数の議員から、せめて加茂市民は200円にして、市外の方は300円にしたほうがよいのではないかという意見が出ております。

3番目、学校給食について。長岡市は、平成12年4月から学校給食調理業務の民間委託を実施しています。これは、長岡市行財政経営改革プランに基づいているもので、学校給食運営協議会、これは学校、保護者、委託業者、教育委員会で協議する組織としてそれぞれの委託施設に設置されています。具体的には、1食何円といった今までと同様に保護者の皆さんが負担する給食費の納入はそのまま民間委託するというものです。加茂市においても、今の学校給食調理場はそのまま、第三セクターでもよいし、民間委託でもよいのではないかと考えます。

4番目、加茂市敬老会について。毎年9月中旬に加茂市敬老会が加茂市民体育館で開催されており、敬老会に係る経費が1,312万円、うち記念品等報償費757万1,000円、祝い赤飯購入費254万1,000円、名簿等印刷費77万4,000円、バス等借上げ料で140万9,000円となっております。年々後期高齢者の増加に伴い、加茂市内の各地区ごとでの自主敬老会もしくは加茂市社会福祉協議会に移行されたほうが望ましいと考えます。その際、1人幾らという補助金を支給すれば、予算の半額以下でも行えるものと考えます。

5番目でございますが、加茂山公園の旧市役所跡地駐車場について。加茂山公園に来られる方が、いつ

も駐車場が満車で困惑しております。J R通勤やその他の目的で非常に緩い管理になっているのが現状で、商店街の方も困惑しているとのこと。1時間無料、その後30分ごとに100円という有料ゲート式駐車場への変換を求めます。

6番目、国道289号線（八十里越）の開通に伴い、加茂市の受け入れ態勢と予算化について。新潟と福島を結ぶ国道289号線の全線開通まで、あと4年から5年かかると予想されております。私は、昨年秋に新潟県側のゲートを通り、工事現場を視察し、福島県只見町ゲートを越え、只見町の議長を初め議員3人と懇談会をさせていただきました。その際、小学生のお子さんを持つ議員さんは、新潟市のマリンピア日本海に行くため、只見町から国道252号線を通り、魚沼市入広瀬を通過し、長岡市栃尾を通り、三条市の荒沢から県道長岡栃尾巻線、いわゆる加茂市の七谷、狭口、秋房、若宮町、農林通りを通過して新潟市に行くことが明らかになりました。福島県西会津、南会津の人たちも、開通に向けて大きな期待感を持っているところであります。

加茂市史資料編5民俗、119ページ、「八十里越への道」より抜粋します。「加茂からは三国街道を大崎（三条市）へ抜けて五十嵐川をさかのぼる道と、黒水から村松街道を通過して森町へ出る2つの方法が主流だが、下条の長福寺から大平川沿いを通る山道もある。廃村となった山新田（大平新田）を通り、中世に築かれた姫ノ城跡を過ぎた加茂、三条、下田の分岐点に道標が建つ。そこから鹿峠まで下り、八十里越へと続く。天保14年の改修を契機に、加茂縞や紙など加茂の商品が会津から北関東方面に広まった。昭和初期には、八十里越を経て奥只見まで加茂産の反物類が自転車で運ばれ、販売された。物流の発展と活発な人の往来は機を一にし、嘉永3年（1850年）には119人の女性たちが日光参詣に集団で八十里越を旅した記録が残っている。加茂からは往復10日前後の道のりであった」と記されてあります。加茂市にとっても福島県西会津、南会津との交流は、長い年月の歴史があることがここから読み取れます。

八十里越全線開通後、福島県の方や北関東の方が加茂市を通る際には、通行者からとどまっていたかなくてはならない。全国でも珍しい放し飼いのリス園があるというのも大きな目玉ですが、冬期間は閉園されております。

そこで考えましたのが、美人の湯を道の駅に申請し、登録することです。道の駅は、安全で快適に道路を利用するための道路交通環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設で、地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場を基本コンセプトにしています。また、道の駅は3つの機能を備えており、24時間無料でできる駐車場、トイレなどの休憩機能、道路情報、観光情報、緊急医療情報などの情報提供機能、文化教育施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設で地域と交流を図る地域連携機能などがあります。駅ごとに地方の特色や個性を表現し、文化などの情報発信やさまざまなイベントを開催することで利用者が楽しめるサービスも提供しています。道の駅の設置者は市町村等で、国土交通省の道路局に申請し、登録します。

美人の湯を道の駅に登録することによって、来場者も温泉目当てに立ち寄ることができるきっかけとなるのです。これにより、美人の湯の収益改善に努めることができると考えます。その場所を加茂市の情報発信基地として、定住促進に向けた数々の加茂市の魅力的施策を発信すれば、交流人口の増加、さらに人口増加策にもなるものと考えます。

道の駅の登録のほかに、加茂市への道標ともなる誘導看板の設置にかかわる土地の確保、体操トレーニングセンター脇の旧蒲原鉄道線路の延長道路の整備、猿毛橋の拡幅工事等、インフラ整備の予算化、加茂

市民への受け入れ態勢の意識づけも必要になってくるものと考えます。市長の考えをお伺いいたします。

以上、壇上での質問を終わり、再質問は自席にて行わせていただきます。

〔市長 藤田明美君 登壇〕

○市長（藤田明美君） 森山議員の御質問にお答えします。

初めに、美人の湯についてです。加茂美人の湯の入館者数は、平成14年11月24日にオープンしてから先月5月までの16年7カ月で、212万4,749人もの皆様から御利用いただいております。平成15年度の21万4,176人が最も多く、徐々に減少しており、平成30年度の入館者数は9万2,023人でした。前年度の入館者は9万5,906人でしたので、3,883人の減となっています。入館者数の減少については、人口の減少や以前のような日帰り温泉のブームが去ってしまったことや、加茂市の場合、好評のコミュニティセンターの100円風呂が影響し、一時期の入館者数を下回っているものと考えています。

次に、加茂美人の湯の経費についてです。平成29年度の加茂美人の湯の運営費の決算額は1億7,201万4,000円で、平成28年度は1億7,726万5,000円でした。平成30年度は施設内の冷暖房設備故障による更新修繕を行ったことなどから、平成29年度に比べ約1,000万円多くなる見込みです。平成29年度の歳出超過は9,288万円で、平成28年度の9,230万円の歳出超過と比較し、ほぼ横ばいとなりました。

この中で毎年行っていた温泉井戸掃坑工事については、温泉井戸内への温泉水希釈のための注水を滞りなく行うことにより、スケールの生成を防止することができ、また注水管を防食テープ等で保護し、防食を防ぐことにより、注水管を引き上げる際の管体が破断することのリスクを減少させることができた結果、温泉井戸掃坑工事の頻度を減らすことができ、平成29年度、平成30年度、令和元年度は行わず、令和2年度に実施するかどうかこれから決める予定です。ちなみに平成28年度の温泉井戸掃坑工事費は1,080万円、ステンレス管購入費が702万円、計1,782万円かかりました。

このように依然として経費の下がらない加茂美人の湯をどのように運営していくかという御質問ですが、赤字だからといってこのように多くの方々から御利用いただいている加茂美人の湯をすぐになくすわけにはいきませんので、コミュニティセンターと一緒に現状維持がよいか、指定管理者制度を導入するのか、業務委託がよいのかどうか、また宿泊施設としての再生や積極的なイベントの開催につきましても、今後実施する行財政健全化の取り組みの中で検討していきたいと考えています。

次に、コミュニティセンターについてです。最初に、上町コミュニティセンターと中央コミュニティセンターを1つにしたかどうかということについてです。上町コミュニティセンターは旧NTT社屋を借用し、平成8年7月に1階を市民サービスセンターとして開所し、同年10月に2階をコミュニティセンターとして開所したものであります。また、平成17年6月からは月曜日の開館を始めたことにより、年間を通じ年末年始以外は開館することになりました。平成30年度の上町コミュニティセンターの利用者は、1万8,633人でした。

平成31年度予算で上町コミュニティセンターの経費は1,361万8,000円で、その中に旧NTT社屋の賃借料66万7,000円が含まれています。また、市民サービスセンターの経費は602万9,000円であり、その中に市民サービスセンター分として旧NTT社屋の賃借料152万5,000円が含まれています。したがって、現在NTTには819万2,000円の賃借料を支払っています。

そこで、上町コミュニティセンターと中央コミュニティセンターを1つにすると、上町コミュニティセンターの経費と市民サービスセンターの経費の中のNTT賃借料を合わせた合計1,514万3,000円が削減されることとなります。上町コミュニティセンターを中央コミュニティセンターと1つにすることにつきましては、上町コミュニティセンターは1階に市民サービスセンターがあり、多くの方々から利用をいただいているため、なかなか難しい問題ですが、今後実施する行財政健全化の取り組みの中で十分に検討していきたいと考えています。

次に、コミュニティセンターの100円風呂につきましては、加茂市民は200円にして市外の人は300円にしたほうがよいのではないかと御意見についてです。現在、コミュニティセンターの入浴料金につきましては、70歳以上の加茂市民、幼児及び心身障害者は無料、それ以外の方々は100円となっています。過去にも同様な御意見がありましたが、市民の皆様を初め、特に他の市町村の方々请加茂市に親近感を持たれるとのことから、料金の改定を行いませんでした。このことにつきましても、今後実施する行財政健全化の取り組みの中で十分に検討していきたいと思っております。

次に、学校給食についてです。加茂市における学校給食の提供は、現在まで市で雇用する調理員（正規と臨時）により、市所有の給食調理場でつくるいわゆる直営方式で行われています。議員御指摘のとおり、学校給食の提供方式は、この直営方式、一部の調理工程のみを外部に委託する委託方式、市所有の給食調理場の管理、運営を民間企業に包括的に代行してもらう指定管理者制度方式、それから市と民間企業とが共同出資して施設を設立し、管理、運営する第三セクター方式等があります。

加茂市は直営方式ではありますが、米飯時の炊飯を民間業者に委託しています。また、調理した給食を運搬する際、例えば学校町共同調理場でつくった給食を葵中学校と若宮中学校へ運ぶのに民間業者に委託しています。そういった意味では、既に一部委託方式と言えるのかもしれませんが。現在、加茂市では、給食調理場が6施設あります。青海町共同調理場、七谷共同調理場、須田共同調理場、学校町共同調理場、加茂南小学校調理場、下条小学校調理場、この6施設で市内12校ある小中学校の給食を提供しています。調理員は、市の正規職員が13名、臨時職員が13名の計26名です。

民間委託、指定管理者制度、それから第三セクター等の方式へ転換する場合、まず調理員の雇用の問題があります。解雇して終わりというわけにはいきません。次の雇用先の確保が必要になります。それから、食品アレルギーや感染症（ノロウイルスやO-157）など、異物混入等の問題もあります。民間委託等にしたときに、現在のように児童生徒一人一人にきめ細かな配慮ができるのかという不安があります。また、現在加茂市の学校給食は、1食当たりの単価は新潟県全体の平均単価よりも10円ほど安く提供していますが、食材の高騰、消費税の導入の影響などで現在の内容を維持できるのかという問題もありますので、そこもあわせて考えながら検討する必要があると考えます。近隣市町村の運営方法等を参考にしながら、十分な検討と研究をしていきたいと考えています。

次に、加茂市敬老会についてです。加茂市では、毎年敬老の日に加茂市民体育館で敬老会を開催しています。平成30年度は75歳以上の方5,313人を対象に開催し、出席者は来賓も含め500人でした。

敬老会の事業費についてですが、平成31年度予算では1,312万円で、その内訳は記念品等報償費が757万1,000円、赤飯購入費や名簿作成費などの需用費が371万7,000円、郵送料などの役務費が28万7,000円、車両誘導や会場設営費などの委託料が13万6,000円、バス借り上げ料や椅子のレンタルなどの使用料及び賃借料が140万9,000円となっています。

敬老会については、他市では行っていないところや町内会単位で行うところなど、さまざまな形態があるようですが、行っているところでも出席者数は少ないところが多いようです。市内の各地区での自主敬老会や社会福祉協議会への移行が望ましく、1人幾らという補助金を支給すれば予算の半額以下で行えるとの御意見ですが、他市の状況を参考にして削減できるところから検討を行い、近いうちに結論を出したいと思っています。

次に、加茂山公園の旧市役所跡地駐車場についてです。加茂山公園は、青海神社周辺に広がる約15.4ヘクタールの都市公園です。商店街に近接し、JR加茂駅から徒歩5分ほどで交通の利便もよく、四季を通じて市民を初め県内外から大勢の皆様に親しまれている公園で、年間約30万人の方々に利用されています。

議員御指摘の駐車場は、旧市役所跡地を利用した駐車場で、旧庁舎跡地に乗用車25台及び大型バス2台、旧庁舎車庫跡地に乗用車15台、計乗用車40台及び大型バス2台が駐車可能です。そのほか、旧庁舎前に乗用車8台、公民館脇に乗用車15台、市民体育館脇に6台、青海神社入り口に3台、週末にはこれらの駐車場に加え、屋外ステージ前に乗用車40台の駐車が可能となっています。

旧庁舎跡地及び旧庁舎車庫跡地を利用した駐車場にJR通勤の車が駐車したり、夜間駐車をしている車が多く、公園に来られる方が利用できないため、駐車場を有料にしたらどうかという御質問ですが、有料ゲートを設置するにしても多額の費用が必要となります。財政状況は厳しく、設置は難しいものと考えています。

まず、費用をかけない方法として、例えば駐車場の利用時間を9時から午後10時までとし、利用できない時間帯については入り口に施錠することでJR通勤で使用している車あるいは夜間駐車している車などは少なくなるのではないかと思います。これらも含め、公園に来られた方々に御迷惑をおかけしないような駐車場のあり方を検討していきたいと思っています。

次に、八十里越のことに関してです。初めに、美人の湯を道の駅に申請し、登録することにつきましては、最初の御質問とあわせて今後の運営を検討する中で、その案も考えていきたいと思っています。

次に、インフラ整備の予算化についてであります。旧蒲原鉄道跡地の道路整備は、現在改良済みの箇所から上流側を改良する場合、加茂川にかかる橋が必要で、この橋だけでも7億円以上のお金が必要であり、現在の財政状況では誘導看板の設置も含め、事業化は難しい状況です。

答弁は以上になります。

○11番（森山一理君） ありがとうございます。いろいろと長い項目で済みませんでした、いろいろ細くございまして。本当は10項目ぐらい最初あったのです。しかし、そうすると市長もお困りになるかなということで、残りは随時9月定例会、12月定例会とネタがいっぱいありますので、させていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

まず、市長のお考えをお聞きするわけでございまして、市長は率直にどう思っているかということですね、問題は。だから、これは率直な市長のお考えだったのでしょうか、この答弁書は。それまず1つ質問。

○市長（藤田明美君） それは最初の……（11番森山一理君「全部」と呼ぶ）全部ですね。6項全てについてなのですけども、はい、全部率直な考えというか、見直しが必要なところも当然出てくるとは思います。この森山議員が挙げられたものは、当然見直しをするかどうかは検討していかなければいけないことだと思っているのですけれども、その中でも例えば美人の湯についてはこうしなければいけないという

私自身の考えが今具体的にあるわけではなくてということと、財政健全化の中で全体、私の中では全体、コミュニティセンターもそうなのですが、美人の湯もコミセンも。全体を一緒にして、まずどれをどのようにしていったほうがいいのかというのを考えていきたいと思っています。美人の湯は美人の湯、コミセンはコミセンでまた考えていくことも必要なのだと思いますけれども、また全体の中でどれぐらい経費が削減できるかとか、そういうところも一緒にするところ必要はあるかなというふうに考えています。

○11番（森山一理君）　そうですね、市長は市長選挙のときに、財政調整基金を4年間で3億円をためるということ考えた折に、私なりの考えなのです、1つ。ああ、その3億円、貯金ためるの大変だろうな、その中の1年間で約1億近くをどっかからその予算を削りながらやらなければいけないと。それで、税収は加茂は30億ぐらいしかないのに、それであの交付金であとほとんど賄っているわけなので、その中で大変だろうなと思っております。そういう中で1つの提案としてこれをやっているわけで、それでこれを言っていると同時に、私は経費削減と同時にやっぱり収益効果、どういうふうにしたら収益を上げるかと。やはり収益を上げるには、思い切った収益でなくて、やっぱり姑息な、細かいところから1円ずつの、「千里の道も一歩から」といいますから、1億円ためるにもまず100円から、100円風呂から200円風呂にしていかなきゃならん。段階、ステップを飛んで、積んでいけばよろしいのではないかと考えております。

まず、美人の湯についてであります。市民の方から、市長もかわったことだし、その美人の湯、今まで各議員が立派な提案をされてきました。私は、各議員本当みんなすばらしい提案をなさって、イベントについていろんなことを言っていっちゃって、いや、すごい、常に議員さんは加茂市のことを考えていっちゃうのだなと関心しながら聞いておりました。

そういう中で、加茂市民の方から、あの2階の大広間がステージがありますよね。それで、半分仕切って例えばいろんな何か総会とか宴会とかやっておりますが、その半分仕切ってやはり常に演芸をやった方がいいんじゃないかと、そういう提案が来ました。それで、今岩室のだいろの湯で、こういう劇団神楽公演、これあるのです。こういう劇団神楽公演というのがありまして、これに森山さん行ってみてくれということで行ってきました。それで、あのだいろの湯の2階に行ったのですが、それ無料なのです。無料で、それであいう劇団というのは私余り、梅沢富美男劇団みたいな、そういうのはテレビでは見ておりますが、実際に見たの初めてで、2時間で、ああ、2時間苦痛だなと思っていたのです。ところが、前半の、中には100人ぐらいいまして、いわば後期高齢者が中心なのです。それはよくて、一番若い私ぐらいなもので。そんなもんで、それでこの劇団は演劇は1時から始まりまして、それがなかなかお涙ちょうだいで、「取り替えっ子」という演目で、なかなか感動的でした。それで、休憩が15分ぐらいいまして、残りの1時間を歌手の方が歌って、そして舞踊ですね。新歌謡舞踊で音楽に合わせて踊りを踊ると。そういう踊りも、やはりその道のプロですね。ただ、踊っているわけじゃないです。その踊りの内容が物すごく繊細で、洗練された男性の座長が女形になって踊ったりとか、物すごく感動したのです。いや、こんな世界があったのだなと。これは一般の私も含めて、人間として本当に感動するのですよ、あいう旅芸人という、そういうのがあった。そういうのを、イベントもやってもいいのではないかと思います。市長の御意見はどうでしょうか。

○市長（藤田明美君）　森山議員のおっしゃるとおり、美人の湯でイベントをすることは私は大いに賛成で、それは本当に今の形のままだでもすぐにできることだと思っています。既に若い方からも美人の湯を使って

イベントをやりたいという提案があったりもしていますので、そういうイベントをやりたい、その美人の湯という場所を提供することは私は可能だと思っています。そういう意味では、市民の皆様からこういうイベントを美人の湯を使ってやりたいということがあればどんどん提案していただいているのではないかなというふうに思います。それは、議員さんを通じて提案していただいたり、直接市のほうにお話をいただいたりというふうにしてもいいと思いますし、もしそういう仕組みづくりが必要であればまた今後検討していきたいと思っています。

○11番（森山一理君） やはりイベントをすることによって集客はそのだいろの湯さんはふえていらっしゃるの、それで皆さんその踊りとか演劇に感動して、みんなその踊っている方の胸元に1,000円とか2,000円ぼんぼん、ぼんぼん入れるのです。それで、私も思わずもう帰りに封筒に薄謝入れて、いや、ありがとうございましたという、雅舞子さんという副座長で座長の奥さんなのですが、その方に、一生懸命座長がTシャツ売っているのですよ、Tシャツいかがですか、いかがですかとかいって。ああ、一生懸命だな、ただ踊って演芸して終わりじゃない。その後もちゃんとCDいかがですかとか、もうそれ感動しました。私も奥様に薄謝、感動いたしました。その感動、やはりこの世の中というのは私は感動じゃないかなと思うのです。感動してお金が動くのじゃないかなと。だから、美人の湯もそういうふうイベントをすることによって、いや、加茂美人の湯大したものだと、よし、行こうかと。それで、感動してそこにまたお金を落とすと。それで、加茂のふるさと納税に、いや、加茂もなかなか大したものじゃないか、よし、ふるさと納税どんどん入れようみたいな、そして税収が上がるという、だからそれを今までやってこなかったの、やっぱり市長、発想を転換して、あの有名なだいろの湯の、これは今月いっぱいだそうでございますので、ぜひ市長も行かれて、参考のために副市長と一緒に行ってみてください。商工観光課長も一緒に、美人の湯の藤田所長も一緒に行ってきてください。

次に、コミセンでございますが、やはりほかの議員からも言われておまして、上町コミセンと中央コミセンを、あんな近いのにおかしいということでございますので、これは検討してくださいということでございまして、NTTの皆さんには申しわけないですけども、もういいのじゃないかと私は思いますので、長年もうずっと高い賃借料払ってまいりましたので、もうよろしいのではないかと私も思います。ですから、市民サービスセンターのその手続云々はやっぱり中央コミセンに移行すればよろしいのではないかと。1階がだめだったらエレベーターで2階行って、2階のちょっとした窓口をつくるとか、いろんな策があると思いますので、早急に御検討をいただきたいと思います。

あと、100円風呂につきましてでございますが、私の近所の御老人を伺ったときに、俺はあの100円風呂、70歳になって無料なのさ。ほんで、俺とばばと2人で家にいるのだけでも、毎日100円風呂行って、家の風呂とめたて。月曜日どうするのですか、月曜日は体拭いているこてねと、そういう、要するにその100円風呂に行くのが楽しみなのですって。そして、家のお風呂はシャットアウトしたと。それもいいのですけども、そうすると水道料が収益が上がらない。そして、民間のガス会社が、要するに経済効果よくないと思いますので、そういうことがないように、やはり70歳以上の人は100円、そして加茂市の人を200円、市外の人を300円。うち、我が家がリフォームをしているときに須田コミセンに行ったのです。須田コミセンへ行きましたら、風呂の中が加茂市民じゃなくて、何か白根の人が多かったです。それで、「そなんだんがいや」と西蒲弁ありますねかね。加茂は、「そうらいね」とか「そうらんへえ」とかという。西蒲原のほうは「そなんだんがいや」というので、これ燕弁、そ

ういう言葉が飛び交いましてね、ああ、市外の人が多いのだなと思って、それで100円というのはちょっとあれだなと思って、すごい喜んでるらしい、白根の新飯田の人とか。そういうことでございまして、ぜひ値上げを要求します。値上げというか、これは税込アップ。値上げという聞きが悪いですけど、もう早急に値上げをしていただきたいというのが、各議員も言っていますし、市民も言っています。いかがでしょうか、市長。

○市長（藤田明美君）　そうですね、まずコミセンの値上げについても当然検討の対象になると考えています。ただ、今すぐここで値上げしますということは言えないので、値上げした場合には幾らぐらい税収がふえてというところもきちっと計算してから検討して皆さんにお示ししたいなというふうに思うことと、先ほどの上町のコミセンについてなのですけれども、上町と中央コミセンについても一緒にしたほうがいいという御意見も本当にたくさんあります。それで、ただ上町コミセンはコミセンで、これまでこの場で活動している市民の方もいらっしゃいますので、それじゃその上町コミセンがなくなったときにその方たちがじゃどこで活動できるようになるかとか、そういうことも含めて検討しないといけないと思いますし、市民サービスセンターがありますので、その市民サービスセンターをじゃどこに移すかということも検討課題になりますので、そこが解決できれば1つにできるのかなというふうに思っています。

○11番（森山一理君）　お願いいたします。

次、学校給食についてであります。昨年新潟県の全議員が長岡に集まりまして、そのときに長岡市長が来賓挨拶でその学校給食のことを言いました。その後、懇親会が長岡グランドホテルでございまして、私は議長をしておりましたので、同じテーブルでございましたので、長岡市長のところに、ああ、先ほど市長いいお話でございましたねということで、そこでその市長のほうで問題にされているのが、職員が13名、臨時職員が13名、民間委託、指定管理者にすると解雇して終わりというわけにはいきません、次の雇用先の確保が必要になりますということでございましたが、やはりその人たちはそのまま、そして民間委託するという方法がよろしいのではないかと。その方たちを首にしるか私は一切言っておりませんので。長岡市はそういうふうにしたら、長岡市は合併してやはり給食の方の労働日数の少ない、あと労働時間も少ない、そして正職員扱いということでやっぱり市民から、かねがね磯田市長が思っていたらしいのです。ほかの職員さんと違うわけですよ、労働時間も労働日数も。夏休み、春休み、冬休み休み。そうでしょう。それで、本庁の皆さん毎日来ているわけだ。それで、午前中1食つくって終わりじゃないですか。それで同じ報酬はちょっと違うのじゃないかというふうに磯田市長も思っていたのだそうです。ところが、それを言いましたら、やはりその給食の家族の関係者が長岡市にプラカード持ってきて、不当解雇やめろと行って磯田さんのところに来たらしいのです。そういうことがあって、いや、大変でしたよと言っていました。その大変じゃないような仕組みをつくれればいい。そのまま民間委託して、例えば新潟経営大学の大学食堂へ行きますと、ヨシケイさんがやっているのです。ヨシケイさんがやっていて、その新潟経営大学のヨシケイさんは、夕方行きますとジャーをぼおんと置いていまして、そのヨシケイさんがもう8時ぐらいまでみんな残っているのですよ、そのヨシケイの職員さんが。そして、ジャーをどおんと置きまして、もう御飯盛り放題。いいですね。それで、ヨシケイさんがそれやっていると。そういうことで、本当に学生は券売機で安い定食を買って、そして御飯をいっぱい食べるということでやっているそうでございます。そういう方法もいいのではないかとということで1つ提案させていただきたいと思いません。なかなか難しい問題でありますので、これは答弁は要りません。

次、加茂市敬老会についてであります、これは近いうちに結論を出すということでございますので、御期待申し上げます。

加茂山公園の旧市役所跡地駐車場についてでございますが、これは答弁では「有料ゲートを設置するにしても多額の費用が必要となります。財政状況は厳しく、設置は難しい」という答弁でございましたが、これ以前も、何年か前私が一般質問させていただきまして、そのときゲート、JR新幹線燕三条駅の三条側、燕側に、30分無料なのですよ、こういうゲートがありまして。市長、行ったことがあります。そこでカードを取って、30分以内見送りだと無料なのです。そして、30分ごとに100円。ちょっと30分過ぎると100円。まあ100円ぐらい、今100円硬貨ですけども、100円もありがとうございますということで納入するのですが、その機械を設置すると幾らぐらいかという以前質問しました。そうしたら加茂市サイドでは、150万円ということなのだそうです。ですから、この財政状況が厳しいというのにおかしいな。これはやはり150万円やって、それで私はそれもうけると、それで収益を上げろということなのです。収益を上げろということで、ただ機械でこうするでしょう、ぎゅっとカード入れて、こうだけなので。何かぱっと素人が言っているわけじゃないので、それつけるだけでもいいのじゃないですか。それをつけて、それでまず反応を見て、そして例えば1時間無料とか2時間無料にして3時間以上は100円かかりますよとみたいな、そういういろんな操作ができるのです。だから、それをまずつけてみてどうなのか。本当に商店街の方が困っている。

それで、私も元旦マラソン近くなりますとそこに夜置いて練習するわけですよ、元旦マラソンコースを、2.8キロ。いつもぶりですけども、私なりに努力している。その駐車場にそういう車を置いてそれで行くのですが、まだ車ずっとある。それラーメン屋さんの前にあるのはいいです。貴布禰さんとかいいけど、その向こうのほうも。それで、ずっと見ているとやっぱり常駐でとめているのです。やっぱりそういう戒めのために、昔は都市計画課の職員さんがしょっちゅう車のところに紙を置いたり、努力なさっていたことは聞きます。しかし、戒めのためにそれゲート1つぽつと、あっちでもいいし、こっちでもいいし、つけてみたらいかがでしょうか。150万円は、あつという間に100円風呂を200円にすれば回収できますよ。都市計画課長ですか、お願いします。

○都市計画課長（樋口敏晴君） 今ほども議員がおっしゃいましたゲートにつきましては、1カ所150万円ぐらいかかるということです。今の駐車場想定しております2カ所につきましては、入り口が今3カ所あります。そうなりますと150万円掛ける3ということになりますので、450万円という費用がかかります。ただ、あの広い駐車場のほう、貴布禰さん側ですか、そちらのほうに関しましては舗装がもうひび割れがしてあったり、舗装がしていない場所がございます。やはり有料駐車場にするからにはその辺の舗装もやりかえなければならぬというふうに思っておりますので、そうなりますと先ほどの450万円プラス舗装費等がかかってくるということになります。それで先ほどの答弁のように多額にかかるというような答弁をさせていただきました。

○11番（森山一理君） うん、それよくわかりますが、とりあえず1カ所つけてみないと。出口1カ所にして、入り口を1カ所にする。それであと閉鎖して、燕三条の駐車場みたいに。私はいつも燕側にとめるのですが、あれ1カ所でいいのです。そういうふうにするると必ず払わなきゃいけないと、そういうことでございます。とりあえず1カ所でもいいのじゃないですか。あとは向こう側、西山餅屋さんの隣側をつけるとか。こっちのほう、旧市役所側はいいわということで、西山餅屋さんのほう1カ所なので、そこ

に結構とめているのです。本当に近くの商店主が、森山さん、また言うてくれ、言うてくれと今回の質問となりました。市長、いかがでしょうか。市長のお考え。

○市長（藤田明美君） 先ほども都市計画課長が答弁したとおり、有料ゲートも検討したのです。それで、今はちょっと厳しいだろうという判断だったのですけれども、有料ゲートをつけるとしたら私はやはり両方つけないといけないかなというふうに考えていまして、その有料ゲートつけるにしてもやっぱり余裕ができるまでは施錠するという方法をちょっと検討してみたいなというふうに思っているのですけれども、だめでしょうかね、施錠方法。と思うのですが、それ本当に現実的に今ちょっと有料ゲートは厳しいかなというふうに思っております。

○11番（森山一理君） 今、議員のほうから無料でいいのじゃないかという声も出ていますので。しかし、市民の声としてやはり、加茂駅の駐車場もそうなのですが、加茂駅は市は余り関係ないのでしたっけ。話がそれますので、やめますけども、あれも30分以内に退車してくださいというのですけども、ずっととめているのですよ、通勤のために。そして、長岡にお勤めの人があそこにとめて、ずっと1日いて、それで夕方乗っていくと。けしからんやつがいるのです。あれもやはりゲートにしたほうがいいのじゃないかなと思いますけど、それでそこで収益をふやして加茂駅橋上化にするという提案を今度させていただきますので、まずよろしく願いいたします。

最後でございますが、八十里越のやっぱり準備の意識づけです。道の駅、今美人の湯が外から簡単におりて、トイレ貸してくださいというのは、一々靴を脱いで中に行かなくちゃいけない。そして、買い物をするにも一々中に入らなければいけない。やはり外から自由に出入りの入り口があって、そしてトイレも土産物の隣に、仮設トイレでもいいけど、何かちょっと工夫が必要で、道の駅乗客じゃなくてもそういう声が上がっております。例えば七谷の方はスーパーがないので、農協さんのスーパーありますけども、結構美人の湯さんに買いに行くのです。それで、お土産屋さんとかありますので、そして加茂の町なかのお菓子屋さんまで来なくても、そこで田辺のかりんとうやら何やら買って、そしてそのままどっか村松や大崎山に行くということで大変便利なのですって。ですから、一々靴脱いでどうのこうのになると大変なので、外からの出入り口も開放してくれないかという意見が出ていますけど、どうでしょうか、市長。

○市長（藤田明美君） 済みません。まず、その前に加茂山公園の駐車場なののですけども、まず加茂山公園の駐車場がなかなか公園に来た人が利用できないという点については、私は大きな問題だと認識していまして、まずは費用がかからない方法でやるのと、でも行く行くは根本的に解決していかなければいけない問題かなというふうに思っています。

ということと、美人の湯の道の駅と、あとお手洗いに關することなのですが、道の駅に申請していく手段というか、まだ道の駅にしようとは思ったことが私自身はなかったので、ちょっとこれから検討をさせていただきたいということと同時に、外からも利用しやすい状況というのをもうちょっと、要は美人の湯全体でもう少し利用しやすいようなふうに変えていきたいなというふうには私自身も考えています。

○11番（森山一理君） それで、美人の湯はお願いしたいのですが、八十里越の開通に伴う加茂のインフラ整備なのですが、以前2年前に質問させていただきましたときに、加茂市体操トレーニングセンターの脇の道をずっと舗装して、そして旧蒲原鉄道の線路のところずっと舗装して、それで猿毛橋をちょっと拡張して、そのままでもいいのでしょうか、そうすることによって七谷の人、要するに下田の人、福島の人が、こっちを通ると思うのです。それで、若宮町のほうを通らないのかわ、あの道半の交差点が。あれ

私はラウンドアバウト化すればいいと思っているのですが、あれ本当毎回通るたびに、若宮町のほうから来て、そして曲がるとまた赤なのです。それでみんなとまる。そして、プPPERとって加茂市の人は押すわけだ。それで、やはりそれも改善したほうがいいと思うし、これはやっぱり市長命令でもうすぐラウンドアバウト化しろと何か言ってください。それで、例えば猿毛の橋とか今言ったインフラ整備、やはり八十里越あと四、五年、これ意識を、市長を初め市の職員さん、そして加茂市民に意識づけをしていただかないともう大変なことになります。ただ福島からぼんぼん、ぼんぼん来て、ただ通過して、ああ、ばか近道らっけいいやとなるのです。それではなくて、やっぱりそういう人たち昔から交流があったわけですから、やはり交流の再構築的な意識をしなければいけないと思っておりますが、市長の意識はどうですか。

○市長（藤田明美君） そうですね、八十里越が開通して福島の方が加茂市を通過される可能性も大にあるということで、その方たちが加茂市にもいかに来てもらうかという仕組みづくりはこれから必要であるかと思えます。そういう意味では、しかしあの道路の整備とかになりますと多額の費用がどうしてもかかってしまって、今すぐこうしますということが言えないのはちょっと申しわけないなと思えます。道半のところ、ラウンドアバウト化については、私はそれがいいかどうかは今ちょっと判断はできないです。できないのと、あと猿毛橋の拡張についても、これについてもまだすぐにはできる状況ではないかなというふうに思います。

○11番（森山一理君） 今私がいろいろ言いましたけど、要するに意識づけですよ、問題は。やはり市長としてやはりこれから、財政も大変ですけど、削減することではなくてやっぱり税収をふやす、そして交流人口をふやして、そして市長のお考えにもありますけど、宅地を造成して若い人から定住していただくというお考えも、まことにすばらしい所信表明を伺いましたんで、非常に加茂市が明るい加茂市になるんではないかと。

おとといの商工会議所青年部の新潟県の連合会の30周年に、私もOBでございましたので、参加させていただきまして、加茂文化会館で市長の挨拶は大変すばらしかった。それで、新しい加茂市を見出すように、懇親会の席上商工会議所青年部の会長さんが、「新しい加茂市が誕生しました。若い、すてきな美人女性市長の誕生です」と言ったら、もう260人がぶあっとすごい拍手で、市長も大変喜んだかと思えますが、そういう若者、青年層も非常に期待しておりますので、ある程度の賦課、例えばいろんな加茂市へ負担する、ごみの有料化も含めまして、それがいいか悪いか別物にして、そういう加茂市民はちょっとでもやはり市をいい方向に向けるようにという市民もそういう意識になっておりますので、それ重々市長は1軒1軒回られてそういうのを皆さんから聞いていると思っておりますので、前向きな余り、私が言うのはずっと適当なことを言うていますが、適当じゃない、ちゃんとしっかりしたこと言うていますが、それをちょっと片隅に置いていただいて、市の職員の皆さんも優秀な課長さん多いので、やっぱり意識づけしていただいて、よりよい加茂市をつくっていただければよいなと思っております。市長の考えは。

○市長（藤田明美君） 森山議員のおっしゃるとおり、今はなかなか財政厳しいので、何を削るかというところでどうしても視点が行ってしまうのですけれども、行く行くは加茂市のまち全体をどのようにしていくかというランドデザインをしっかりともう一回つくっていかねばいけないと思っております。そのときにきょう森山議員から御提案いただいたこともきちっと参考にしていきたいと思っておりますので、これからもまた森山議員の大胆な発想を御期待申し上げます。よろしく申し上げます。

○11番（森山一理君） ありがとうございます。これで一般質問を終わります。

○議長（滝沢茂秋君） これにて森山一理君の一般質問は終了しました。

10時50分まで休憩いたします。

午前10時30分 休憩

午前10時50分 開議

○議長（滝沢茂秋君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

一般質問、次。

〔事務局長 質問要旨 朗読〕

○議長（滝沢茂秋君） 12番、山田義栄君。

〔12番 山田義栄君 登壇〕

○12番（山田義栄君） 皆さん、おはようございます。政友クラブの山田義栄です。6月定例会において、一般質問をさせていただきます。質問は、加茂市の農業政策についてであります。20日の日の中野議員の質問と重複しますが、通告をしておりますので、質問をさせていただきます。

新しく藤田市長になられて、農業政策に対し農家からいろいろな御意見等聞かれておりますので、質問をさせていただきます。第1は、人・農地プランと農地中間管理事業についてであります。国は平成24年度より、担い手の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、農業が厳しい状況に直面している中で、持続可能な力強い農業を実現するためには、基本となる人と農地の問題を一体的に解決していく必要があります。このため、それぞれの集落、地域において十分話し合いを行い、その集落、地域が抱える問題を解決するために、未来の設計図となる人・農地プラン（地域農業マスタープラン）を作成するよう求めております。

また、平成26年度から始まった農地中間管理事業は、県知事が指定した農地中間管理機構、新潟県では新潟県農林公社が、農用地等を貸したい農家、出し手から農用地を借り受け、農業経営の規模拡大や効率化を図る担い手、受け手へ貸し付ける事業であり、そのメリットとして機構集積協力金交付事業、固定資産税の軽減措置があります。

機構集積協力金交付事業は、農地の集積、集約化に協力する地域及び出し手に対して協力金を交付する事業で、地域集積協力金、経営転換協力金があります。加茂市では、農機具補助等で全ての農家に対し平等に支援、生産調整達成による微調整はありますけれども、持続可能な農業政策をとってまいりました。国の政策は農家の離農を促進し、農家数の減少と集落の衰退、農家の発言力の減退となると考え、この事業には取り組んでおりませんでした。藤田市長はこの事業についてどのようにお考えか、お伺いいたします。

第2は、先ほども述べましたが、農林業総合振興事業について、いわゆる農機具補助であります。今年度は予算が決定しておりますが、今年度も含め、次年度以降についてのお考えをお伺いいたします。例年でありまして、次年度の事業について7月ごろに農家組合長経由での申し込みの案内があります。早目に方針を決定していただかないと農家も不安です。制度そのものもしくは要件を変更するのかなど、いろいろなお考えがあると思いますので、早目に方針を決定し、周知していただきたいと思っております。

以上で壇上よりの質問を終わり、再質問は自席で行わせていただきます。ありがとうございます。

〔市長 藤田明美君 登壇〕

○市長（藤田明美君） 山田議員の御質問にお答えします。中野議員の答弁と重なるところがありますけれども、答弁させていただきます。

初めに、人・農地プランと農地中間管理事業についてどのようにお考えかとのことです。国は、担い手の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などの人と農地の問題を解決し、持続可能な力強い農業を実現する必要があるとして、平成24年度からそれぞれの集落、地域において話し合いを行い、その集落、地域が抱えている問題を解決するための未来の設計図となる人・農地プラン、地域農業マスタープランを作成するよう市町村に求めています。新潟県内では28市町村で829のプランが作成済みで、平成31年3月末時点において897のプランが作成予定です。したがって、耕作地がない粟島浦村を除くと未作成は加茂市だけです。

また、農地中間管理事業につきましては平成26年度から始まり、県知事が指定した農地中間管理機構、新潟県では公益社団法人新潟県農林公社が、農用地等を貸したい農家、出し手から農用地等を借り受け、農業経営の規模拡大や効率化を図る担い手、受け手へ貸し付ける事業で、市町村等が農地中間管理機構と業務委託契約を締結し、行うものです。出し手には、要件を満たせば機構集積協力金の交付と固定資産税の軽減措置等が受けられます。また、受け手には、農地の集積、集約化により、農作業の効率化と生産コストの低減が図られる等のメリットがあります。平成30年度の全国の機構転貸面積は4万3,845ヘクタール、うち新潟県は3,406ヘクタールで全国1位、うち新規集積面積は1,294ヘクタールで全国2位です。現在、県内で農地中間管理機構と業務委託契約を締結していないのは、耕作地がない粟島浦村を除くと加茂市だけです。

このたび農地中間管理機構が平成26年度に事業を開始以降、担い手の利用面積は上昇してきましたが、さらに事業を加速化する必要があり、今後は新たに地域の話し合いから始めて機運を高める必要がある地域、担い手が不足する地域について、農地の集積、集約化を進める必要があるので、関係者が一体となって推進する体制を構築する必要があるとして、農地中間管理事業の推進に関する法律等の一部を改正する法律が今国会で成立し、本年秋に施行されます。この見直し等を踏まえ、人・農地プランの作成と農地中間管理事業に加茂市は取り組んでいきたいと考えています。

次に、加茂市単独の補助制度、農機具購入費補助制度の継続についてです。この加茂市農林業総合振興事業、いわゆる農機具購入費補助は、市内農業者及び農業団体が購入する農業用機械の購入費に対して、20%の補助率のうち5%分を前年度の生産調整達成率によって変動させ、補助金を交付しています。過去3年間の実績は、平成28年度は、申請数124件、149台、補助対象事業費2億6,772万7,000円、補助金額4,969万3,000円。平成29年度は、申請数133件、167台、補助対象事業費2億6,500万円、補助金額4,870万2,000円。平成30年度は、申請数131件、158台、補助対象事業費2億4,448万7,000円、補助金額4,572万4,000円です。補助対象事業費は、個人の場合は30万円以上500万円以下、農業生産法人及び農業者等の組織する団体の場合は30万円以上団体構成員の戸数に500万円を乗じた金額以下です。

私は農機具購入費補助を制度として残しますが、その前提としてまず財政健全化を最優先とし、細部の見直しを行いたいと考えています。

周知の方法につきましては、7月15日号の広報かもお知らせ版で、農機具購入費補助を制度として残

しますが、財政健全化のために細部の見直しを行うこととお知らせし、詳細が決まりましたら農家組合長を通じ、農家の皆様にお知らせしたいと思います。

以上です。

○12番(山田義栄君) ありがとうございます。

まず、人・農地プランと農地中間管理事業についてですけれども、まず最初に若干加茂市の現状としてお聞かせ願いたいのですが、5年前の平成26年度と今年度、平成31年度として農家にお示した主食用米生産数量配分農家数の5年前と現在の推移がわかりましたらお聞かせ願いたいと思います。

○農林課長(和田正利君) 御質問の5年前の主食用米生産数量配分の農家数と今年度の主食用米生産数量目安の配分農家数でございます。

まず、平成31年度の主食用米の生産数量目安の配分農家数は、1,222戸であります。5年前の平成26年度の主食用米生産数量配分農家数につきましては、1,273戸でございます。

○12番(山田義栄君) ありがとうございます。

じゃ、もう一つ、昨年度末で結構ですけれども、加茂市の認定農家数がわかりましたらお聞かせください。また、その認定農家数の中での年代別の人数もわかりましたらちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○農林課長(和田正利君) 御質問の認定農業者数とその年代別の構成でございます。

まず、認定農業者数は、平成31年3月31日現在で107名でございます。また、年代別の人数につきましては、30代が7名、40代が13名、50代が18名、60代以上が69名ほか4法人の内訳でございます。

○12番(山田義栄君) ありがとうございます。今お聞きすると、農家数というか、主食米の生産している農家数が51戸ですか、減ったと。認定農家はどのくらいふえたかとか減ったとかちょっとあれですけれども、人・農地プランを作成して農地中間管理事業に取り組んでいくということでございますので、これらのほうが大分もとになってきての地域でのまた実情もあると思いますので、私も今までの政策に対して否定するものではございませんけれども、国の政策の変化と加茂市の今後の農業情勢等を踏まえると取り組んでいくべきだと考えておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

農地集積の円滑化団体との統合一体化などはおおむね来春、答弁にありますように、その他の主要部分はこの秋とされておりますので。ただ、加茂市は人・農地プラン作成していませんので、まずプランの作成等あわせて国はことしの秋までにはそのプランの実質化に向けて工程表を作成とか公表するようにと求めていますけれども、プラン作成等を含めて大変急ではありますけれども、農業委員会を中心としまして関係機関、団体が一緒になってこのプランを作成していくと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。その辺についてももしお考えありましたらお答え願いたいと思います。

○市長(藤田明美君) そうですね、人・農地プランの作成につきましては、本当に急いでなのですけれども、よく地域の実情に合わせて作成していかなければいけないと思っています。そのときに農業委員会の皆様とか関係団体の皆様とよく協議しながら進めていきたいという思いは、山田議員と同じです。

○12番(山田義栄君) よろしくお願います。

次に、農機具補助については、今年度は現在そのまま実行するというので、次年度より補助制度としては残すが、財政健全化のため、細部の見直しを行い、お知らせ版に載せ、詳細が決定したら周知するというのでございます。今年度も制度を残すということで農家の皆さんは不安も解消したのではないかと思います。

いますが、申請方法等については今までどおり簡易な、国、県の補助制度ですと大変難しい部分もありますので、今までどおりの申請方法にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○農林課長（和田正利君） 申請方法につきましては、なるべく変更しない方向で検討させていただきたいと考えております。

○12番（山田義栄君） 20日の日大分答弁が出ておりましたので、回答部分がわかっていましたので、私の思うところと大体相違がないので、もうこれでやめますけれども、市長の所信表明にありますように、市民参加型、市長との座談会を開催し、それぞれの地域、各団体との対話をするところありますので、市民のための幸せを第一に考えた政策を実行していただくよう要望してとりあえず終わります。

○市長（藤田明美君） そうですね、農機具補助のあり方についても今後残すことは残すのですけれども、やはり農家の皆さんにとってもやっぱりどういう形がいいのかというのは、こちらからの一方的な考えではなくて、やはり農家の皆さんとか農業委員の皆さんの御意見も聞きながら、まだでも財政健全化もしていかなければいけないので、その実情も知っていただきながらやっぱり検討していきたいというふうに考えていきたいと思っておりますので、やはりこれからも農家の皆様の御理解と御協力も必要になるかなと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○議長（滝沢茂秋君） これにて山田義栄君の一般質問は終了いたしました。

午後1時まで休憩といたします。

午前11時08分 休憩

午後 1時00分 開議

○議長（滝沢茂秋君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

一般質問、次。

〔事務局長 質問要旨 朗読〕

○議長（滝沢茂秋君） 5番、三沢嘉男君。

〔5 三沢嘉男君 登壇〕

○5番（三沢嘉男君） 皆さん、こんにちは。5番、公明党、三沢嘉男でございます。令和元年6月定例会の一般質問、最後の質問となります。どうぞよろしくお願いたします。このたびの一般質問では、市民バスの運行について、シニア向けのパスポート事業について、2点について質問させていただきます。

まず、市民バスの運行について質問いたします。現在加茂市では、10台の市民バスを加茂市全域8路線にわたり運行し、住民の利便の確保に努め、主に高齢者の方の移動手段としての利用が多いと思いますが、年間約8万3,000人の利用があります。近年の高齢者による自動車事故が社会問題となっている現状からも、車の使用頻度を減らし、バスを利用したり、免許返納を決断することにも1つの推進力になることも考えられ、加茂市の高齢化率が約35%と全国平均の約28%より高い水準であることから、人口が減少していくとはいえ、必要な事業であると考えます。しかしながら、現状の運営では課題も多く、時間や路線によっては利用者がいなかったり、古くなったバスの新規更新がなかなかできず、修理を繰り返すことで修理費が高額になったり、他の公共機関とのアクセスが悪いなど、市民の方から意見、要望等多くの声を聞きます。このような市民の声にしっかりと耳を傾け、できることは対応、改善し、安心、安全な市民バスの運行を推進するべきだと思います。

他の自治体では、バスの利用者が少なくなっている現状から、市民の移動手段としてさまざまな工夫をし、対応しているところが多くあります。近隣の三条市では、タクシー会社と協力し、オンデマンド交通で対応しています。これは、利用者があらかじめタクシー会社に予約をすることで運行されるシステムで、個々に合わせて運行することで利便性を高めることができ、予約がなければ運行されないため、無駄を省くことができます。このことが経費節減につながり、財政負担の軽減につながる可能性が高いというメリットはありますが、乗り合いが前提のため、複数利用となると経路、所要時間が一定とならないことや1人でも予約があると運行することとなり、それなりのコストがかかってくるというデメリットもあります。また、利用者としても運行距離と乗り合う人数で料金が変わるため、1人での利用は負担額が多くなり、地域によっては利用が難しいところもあるようです。

広島県庄原市では、各地域の実情に合わせ、さまざまな運行形態となっており、路線によっては土日が予約運行であったり、事業者が運行している路線以外の交通空白地域に市営バスと乗り合いタクシーを併用して運行させています。

福井県越前市は、地域の利用状況に合わせ、毎日運行する路線と曜日を決めて週2日だけ運行する路線と分けて行っています。こうすることで少しでも無駄を減らし、なおかつ地域の移動手段も最低限確保している状況です。

滋賀県近江八幡市は、15人乗りのワゴン車を電動ステップや手すり、大型の自動ドア、放送機器、料金箱などを取りつけるなどして12人乗りに改造し、市民バスとして運行しており、バスを小型化することでの経費節減や細い路地も楽々通行できるよう、安全面での工夫もされています。

このように各自治体では、長い時間をかけて地域の現状を把握し、運行しながらデータを積み重ね、改善の必要なところを改善しながら、自治体に係る負担軽減や地域に合わせた移動手段の取り組みを行っております。

加茂市でも、今後の市民バスの運行は大きな課題の1つであります。この先も市民の移動手段として継続していけるよう、他の自治体のような改善が必要と考え、幾つか質問させていただきます。現在運行している市民バス10台のうち、4台のバスが走行距離100万キロを超えており、車体の修繕も難しいほどの傷みぐあいです。市民バスは安心、安全に運行することが必然ですが、この現状をどのようにお考えでしょうか。また、近江八幡市のようなワゴン車を計画的に新規入れかえし、利用者の少ない時間帯、地域で運行することも経費削減につながると思いますが、いかがでしょうか。

三条市で行っているオンデマンド交通は、メリット、デメリットはあるものの、一定の経費削減につながると考えます。バスの小型化に加え、運行本数も減らした上で定時運行とオンデマンド交通を併用した取り組みも可能と考えますが、いかがでしょうか。

現在、時間帯や地域でバス利用者が少ないという意見が多くあります。さまざまな要因はありますが、利用者からは地域によって料金が高額ということと、電車とのアクセスが悪過ぎて利用しづらいとの意見が多く聞かれました。そこで、他のバス事業者とのつり合いを考えた料金設定を見直し、利用者に優しい料金設定に改善してはどうでしょうか。また、せっかく加茂駅を経由するのにアクセスが悪いというもの利用価値としては低くなります。ですので、電車の発着時間を考慮したバスの時刻表の変更も必要と思いますが、お考えをお聞かせください。

続いて、シニア向けのパスポート事業について質問させていただきます。平成30年、北コミュニティ

センターが新たに開所し、加茂市のコミュニティセンターは7カ所となりました。そのうち、入浴施設が整っている施設が七谷、中央、須田と3カ所あり、入浴料も1人100円と安価な上、70歳以上の方は無料で入浴できることから、多くの方に利用されています。この3カ所だけでも利用者は年間14万人を超えており、いかに市民の皆さんの憩いの場となっているか、容易に想像できます。

この施設は、市内、市外にかかわらず、誰もが利用できる施設ではありますが、70歳以上の方が無料で入浴できることから、市外からの70歳以上の方も多く入浴しに来るようです。基本は誰でも利用できる施設ではありますが、市内の方であっても70歳以下であれば入浴料は支払うことになります。入浴料100円と安価ではあっても加茂市の税金で運営されていることから、市民感情としては金額ではなく、「70歳以上であってもなぜ市外の人まで無料なのか。それなら70歳以下でも加茂市民が無料で利用できないのはおかしい」、このような声があるのも事実です。しかし、運営していく上で全ての人を無料にすることは現実無理があります。そこで、加茂市の70歳以上の方にシニアパスポートを配布し、このパスポートを提示した場合は無料、提示のない人は入浴料をいただくようにしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

上越市なども70歳以上の方にシニアパスポートを配布し、協賛店舗、施設でパスポートを見せるとサービスを受けれる環境にあります。将来的には加茂市もこのような環境を整えていけたらいいのではと思いますが、御意見をお聞かせください。

以上、壇上の質問を終わりました。再質問は自席で行わせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

〔市長 藤田明美君 登壇〕

○市長（藤田明美君） 三沢議員の御質問にお答えします。

初めに、市民バスの運行についてお答えします。加茂市では、運転員21人、バス10台の体制で、定時定路線により市民バスを運行しております。そのほかにも新潟交通観光バスや越後交通もバスを運行しておりますので、現在路線バスは平成26年12月に開設した長福寺希望ヶ丘線、さらには平成29年12月に猿毛西加茂西部線の開設により、市内全域をカバーするようになりました。

最初の御質問の10台中、走行距離が100万キロを超えたバス4台についてです。市民バスは、天神林方面用に平成9年に購入したバスが1台、平成15年に七谷方面用に購入したバスが3台、平成19年に須田方面用に購入したバスが2台、平成21年に村松戸倉方面用に購入したバスが2台、平成26年に長福寺希望ヶ丘方面用に購入したバスが1台、平成29年に猿毛西加茂西部方面用に購入したバスが1台、合計10台あり、年数で一番古い4台が走行距離100万キロメートルを超えています。

今までの車両管理につきましては、不都合があればその都度修理を行っていて、当面は運行に不安がないことから、現車両を大切に使用してきました。それでも新規購入するほどではないにしろ、修繕料は大きくなってきているのが現状です。今後は、修繕料の削減につなげるため、利用者の少ない時間帯、地域の運行の見直しや中古車両の購入なども視野に入れて検討していきたいと思っております。

次に、デマンド交通についてです。近年、従来型の公共交通機関の赤字路線バスがふえ、運行をやめてしまうという事態が生じており、デマンド交通に切りかえている市町村が多くなっています。新潟県内でも実施している市町村が多く、そのデマンド交通はほとんどが市内全域でタクシー車両を利用したデマンド交通を運行しています。

加茂市でもデマンド交通を併用した方式を取り入れてはどうかということですが、まず三条市で運行されているデマンドバスを例として御説明いたします。これは、市内全域でタクシー車両を利用して運行しているもので、利用者があらかじめタクシー会社に予約をすることで運行され、予約がなければ運行されないため、無駄を省くことができ、経費の削減につながる可能性が高くなります。利用料金は、例えば1人でデマンドバスを利用した場合、料金は距離によって変わり、2キロ未満の500円から30キロ以上の3,000円までの設定となっています。そこで、三条市のデマンドバスと加茂市の市民バスの料金を比べてみますと、例えば市内で一番距離のある七谷の水源地または獄山寺前から市役所までは、加茂市民バスだと640円、三条市のデマンドバスでその距離を運行しますと1,500円となり、市民バスのほうが圧倒的に安くなります。

今までは市民バスの料金と三条市のデマンドバスの料金を比較すると、通常の半分以下ということと、毎日決まった場所に決まった時刻に運行されるほうが便利で使いやすいものであることから、加茂市においては定時定路線の運行をしてきましたが、バスの購入費や修繕料などに係る経費の削減や利用者の料金や利便性を考えて、市民バスとデマンド交通、またほかに他市町村で公共交通の先進事例がないか研究するなど、さまざまな面から検討していきたいと思えます。

また、時間帯での利用者数の差、利用者に優しい料金設定、電車の発車時間を考慮した時刻表の変更ということですが、料金設定の見直しにつきましては他のバス事業者との競合区間もあることから難しく、時刻表の変更についても電車の長岡方面と新潟方面の両方の時刻を考慮した場合は、両方の利便がよいバス時刻の設定は難しいところです。しかしながら、各時間帯での利用者数のデータをよく精査して、現状にちょうど合う設定ができないか、また先ほどのバスに係る経費も含めて十分検討していきたいと思えます。

次に、シニア向けパスポート事業についてです。現在市内には、風呂つきのコミュニティセンターが下条、七谷、須田、中央と4カ所あり、入浴料金は70歳以上の加茂市民、幼児及び心身障害者は無料とし、それ以外の方々は100円となっています。

また、平成30年度の風呂つきのコミュニティセンターの利用者数は、下条コミュニティセンターが3万6,094名、七谷コミュニティセンターが3万5,275名、須田コミュニティセンターが4万2,933名、中央コミュニティセンターが4万7,255名でした。合わせますと15万8,917名でした。

このようにコミュニティセンターは多くの市民の皆様から御利用いただいていますし、さらに近隣市町村の方々からも御利用いただいているようです。利用に当たっては、加茂市民であるか、市外の方であるかを口頭による確認のみで判断しており、市内の方でも70歳未満の方は100円を払い、利用しています。

一方、市外の方でも70歳以上の方が無料で風呂を利用していることが見受けられるため、加茂市の70歳以上の方々にシニア向けパスポートを配布し、これを提示した場合は無料にしてはどうかという御意見ですが、新潟県内では上越市がこの事業に取り組んでいます。

この事業は、高齢者の皆さんの健康維持及び生きがいのある充実した生活を送るための手助けを行うことを目的に、市内の公共施設を半額程度で利用できる上越市シニアパスポートを発行する事業です。対象者は70歳以上の市民の方々に、対象の方には70歳に到達する年度の初めにパスポートを郵送しています。市内の公共施設の利用料をおおむね半額で利用できたり、協賛の民間店舗では配達をサービスしたり、

ポイントを通常の2倍程度サービスするなど、さまざまに工夫を凝らして行われています。

100円風呂につきましては、行財政健全化の中で議論していかなければならない案件です。これ自体のあり方をこれから検討していく中で、御提案いただいた事業の実施や他市町村の方の御利用についてなど、さまざまな面から十分考えていきたいと思えます。

以上です。

○5番（三沢嘉男君） 御答弁ありがとうございました。それでは、幾つかちょっと再質問させていただきます。

まず、市民バスの運行について質問させていただきますが、今回の御答弁の中で中古車両の購入も視野に入れるということであります。これ市民バスとして、これは小型車両の中古車両ということだと思えるのですが、通常の中古車ではなくて、要はほかの市町村でも使われている小型の市民バスというのは、私の質問の内容にもあったように、いろいろ改造して運行されているという状況なのではございますが、これは多分通常の中古車両を購入して、それをまた改造して運行するという、そういう意味合いで捉えていいのでしょうか。

○福祉事務所長（井上毅君） そのとおりで、まず車両ありきなものですから、普通の中古の車両を見て、あとはさらに改造費がまた加わるという形になります。

○5番（三沢嘉男君） わかりました。了解いたしました。

ここには修繕料というのが幾らぐらいかかっているかというのは出てきていないのですが、大体年間2,000万ぐらいかかっていると聞いております。そういった中で中古車両は、ちょっと中古車両によっては幾らかという値段はわからないのですが、新車を例えば小型、ワンボックスカーみたいなものを購入した場合に大体車両で350万から400万ぐらいで、いろいろ改造するとどうですか、500万から600万ぐらいの間になるかもしれないのですが、通常的大型バス1台は1,000万以上しますので、約半分の値段で小型バス利用できるという計算になりますので、そうすれば今4台100万キロ超えていて、市民の皆様も安心して乗っていただけるかどうかと言われるとちょっと不安な部分もあると思えますので、修繕料を踏まえた上で随時多分2台ぐらい入れかえしていけるような現状にあると思うのですが、検討するという一応答弁ですが、そういったことを踏まえた上では新規入れかえしていくというお考えはございますか。

○福祉事務所長（井上毅君） 例えば何台か小さいものを購入したとしても、それで全ての修繕がなくなるわけではございませんので、もちろんそうですから、それはどうしても答弁にもあったとおり、路線によっての人数の差ですとか、時間帯によっての差ですとか、そういうところを見て、そこにどう何台配置していくとか、そういうの全体ちょっと見ないとなかなかそこに今御答弁するのは難しいと思えますので、それは一応小型もあれば中古も、でもいろんな型を視野に入れてこれから検討していくというのが今の状態であります。

○5番（三沢嘉男君） これまでも市民バス運行していたわけですので、ある程度の情報、時間帯によって人がどれだけ乗っているかという、そういう一応データとしてはあると思えますので、それを踏まえた上でそういうバスの小型化もぜひ検討して、できれば経費の少ない形でバスの運行事業ができるようお願いしたいと思います。

また、そのデマンド交通についてなのですが、これは三条市がこういった形でデマンド交通を

行っていますけれども、利用料金でいえば市民バスのほうが安いということになります。ただ、これは乗り合いした金額ではなくて、いわゆる1人で利用した場合の多分金額になっていると思うのです。なので、三条市でもどうしても1人で利用する場合だと経費がかかり過ぎてしまうということで乗り合いを呼びかけていると。できる限り、例えば七谷方面から町に出るときに乗り合いしてもらおうような、そういった呼びかけというのも非常に大事になってくると思います。そうすることでこの金額も多分大幅にまた変わってくると思うので、あくまでもこの数字がそのまま市民バスのほうが安くなるということではないように思います。ですので、そういう基本的には乗り合いをしないとこのデマンドバスを利用する価値がないと思うので、これをもし始めるとお考えであればやっぱり乗り合いを基本として考えた運営というか、してもらいたいですし、またこのデマンドバスを、デマンド型の交通手段を使うことで、予約が入ってからの運行になるので、本当に無駄を省くことができます。今までですと大型バスで、人によっては空気を運んでいるというような表現の仕方をする方もいらっしゃいますけれども、そういう状況で無駄遣いしているというふうに言われますので、そういったことがまずなくなるというのと、市民の方にとっても自分が利用したいときに予約を入れて利用するという形式ですので、利用はしやすいことになると思います。ですので、私が併用して使ったらどうかというのは、一般的なこれまでの定時路線をキープした上で本数を減らして、こうしたデマンドもそういった減らした地域に利用することで市民のそういった不便さも解消されるという思いで今回質問させていただいているのですけれども、そこら辺は御検討いただける内容でしょうか。

○市長（藤田明美君） 三沢議員の御提案のとおり、市民バスについては本当あらゆる方法を考えていかなければいけないと思っていてまして、経費削減とやはり市民の方のサービスの維持は両方同時に成り立たないといけないかなとも思っていてまして、そういう意味では先ほどの中古車の購入と、新車にしても小型化にするということと、もし本数を減らすのであればその地域によってデマンド交通が有効なところがあればそれも検討するというのは、きちんとどれも検討していきたいなというふうにも思っていますし、そのためにもやっぱりデータもきちっととって精査していく必要もあるかと思っています。

○5番（三沢嘉男君） ありがとうございます。実際三条市なども結構年数かけてその路線のデータをとって、その都度変更するところは変更して、本当に利便性とまた経費の面で削減できる部分ということであるデータどりを進めているという状況ですので、多分今もまだ決定されたものではなくて、随時市民や社会の変化によって変えていけるというところにあると思いますので、これも踏まえてお願いしたいと思います。

あと、そうですね、電車の発車時間に考慮した時刻の変更ということなのですが、これ今回私も選挙の中いろいろ回らせてもらっている中で、どうしてもバスが駅に着いたと思ったら電車が発車してしまうとか、その逆で電車が着いてバスを利用しようと思ったらもうその前にバスが出てしまったとかと、そういう話を結構多く聞いていました。私もふだん余りバスを利用しないので、そういったところよくわからなかったのですが、実際そういう声が多くあるということはバスを利用しづらい状況にもあるのかなということでもあります。これ新潟方面と長岡方面への時刻を考慮した場合、両方の利便がよいバス時刻の設定は難しいとあるのですが、それはどちらの方面に対してもちょっと早目に時間設定するとか、それが10分なのか、15分なのか、また30分なのかはわかりませんが、そういった何かもうちょっと工夫をすることで可能なかどうか、福祉事務所長のほうがあれかもしれないですけど、

ちょっとお聞かせ願えますか。

○**福祉事務所長（井上毅君）** 十分詳細はちょっとまだ検討していないのですが、例えば何十分待つかと言われたら今度何十分も待つのかという声にもやっぱりなってくるのかなと思いますが、本当にちょうどいい時間というのはどのくらいのものなのか電車時間に、それとも今電車時間ありきの今度時間帯設定ということにもなってきますので、そこら辺また全体のダイヤを見なきゃだめなのでしょうけれども、かなり今相当に綿密なダイヤが今までずっと蓄積されてきたものになっておりますので、そこはまた再度見直していかなければなりませんし、もっといいコンサルティングなり、何かがあればいいのかなとも思ったりもしておりますが、さらにちょっとそこは詳細に検討させていただきたいと思います。

○**5番（三沢嘉男君）** 一応市民の方からこういう声が上がっているということで、できることできないこと当然あると思いますけれども、そういった極力市民の声に対しては何かしら結論出せるような状況でちょっとお願いしたいと思います。

それでは次に、シニア向けのパスポート事業について再質問させていただきます。これ済みません、私のちょっと情報不足で、下条が1つ抜けていたということでしたけれども、これにもあるように、結構多くの市民の皆さんが利用していただいているというのがわかると思うのですが、その中で70歳以上の方々にこのシニア向けのパスポートを配布して提示してもらおうと。これはここにも、答弁にもありますように、市内と市外の方の区別を、そのすみ分けをしっかりとできる環境を整えてもらいたいということでもあります。中には、これまでは確認するすべがなかなかなかったと。免許証なり保険証という形で身分証を示してもらおうということではあったのですが、なかなかそれも手間になるということで余り厳密には行われていなかったことがあると思います。また、基本的にはこのコミュニティセンターの入浴というのは市外の方からは100円いただくという一応条例なのでしょうか、なっているということでもありましたので、やっぱりここはしっかり市内、市外のすみ分けを行った上でコミュニティセンターのお風呂を利用してもらうということでこうしたパスポート事業というのを行ったかどうかということでもあります。

これを踏まえて上越市で行われているようなコミュニティセンターのお風呂、入浴だけではなくて、これが美人の湯であったり、また加茂市内の商店街であったりでサービスを受けれる状態にも将来的にはしていけたらいいのじゃないかなと思うのですが、そのためには加茂市内の商店街の方たちのまた協力も必要ですし、そういった協賛店の呼びかけというのも必要になってきますが、そういったところはこのシニア向けとしてでもそうなのですから、同じようなシステムで子育て支援パスポートというのも私以前質問させてもらっていました。このシニア向けのパスポートもそうですし、子育て支援のパスポートもこういった形で充実させていけたらと思うのですが、市長のお考えお聞かせください。

○**市長（藤田明美君）** 最初に、先ほどの市民バスの路線の件なのですが、私もやっぱり駅を利用するときに不便なときがあるというお声は伺っていて、何とか変更、どの時間帯のどの路線かというところをもう一回よく見きわめて検討していきたいなと思っています。ただ、本当に緻密に組まれていて、1個ずらすとまたほかがずれてというふうになるので、なかなか簡単ではないのかなと思うのですが、何とかその不便さを解消できるようにしたいなというふうに思っています。

ということと、先ほどのシニア向けのパスポートと同時に私もやはり同じように子育て支援のパスポートを同時に思いつくのですが、まずコミュニティセンターのお風呂に関しては市内の方と市外の方が

やっぱり区別というか、識別できるようにしていったほうがいいのかなどというふうに考えていることと、それとはまた別にシニア向けと子育て支援のパスポートを何とか支援ができるような形は整えていきたいなどと思って、それは財政健全化と別で、どちらかというとならシニア向けの支援と子育て支援の中に入ってくるのかなというふうに思っています。

○5番（三沢嘉男君） 前向きに進めていってもらえそうな答弁ではありますが、こういった形で本当にできるところから少しずつでも加茂市が、また市民の方が本当に住みやすいと思えるようなまちづくりを目指してやっていければと私も思っております。

最後になるのですが、このコミュニティセンターの利用料金なんかも今後の財政運営の中にかかわってくる部分ではあると思うのですが、仮に値上げをしていくとかそういう話になったときには、今度市内、市外の70歳以上というすみ分けもそうなのですが、70歳以下の人のすみ分けというのも今度出てくると思いますので、そういった方向性が示されたときにはまたこういう形でパスポートなんかを利用するような形でしっかり市民と、市内、市外のすみ分けをつけていただければと思います。

本当に今回の質問、私の質問は、選挙で回らせてもらっている中で市民の方からいただいた多くの意見を抜粋して質問させていただきましたので、ぜひこういった市民の皆さんの声がしっかり市政に届くようにまたぜひよろしくお願ひしたいとお願ひいたしまして質問を終わらせていただきます。よろしくお願ひします。

○議長（滝沢茂秋君） これにて三沢嘉男君の一般質問は終了しました。

これで一般質問を全部終了いたしました。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後1時39分 散会